

《高知県須崎市》

B-DASHプロジェクト

須崎市では、国土交通省の「DHSシステムを用いた水量変動追従型水処理技術」実証事業に参画しています。

この技術の特徴として、①ダウンサイジングによるライフ・サイクル・コストの削減、②省エネルギーで安定した水質の確保、③維持管理が容易、④既存土木躯体が活用可能な四点で、人口減少社会の中で下水処理場へ流入する水量の減少に応じ、効率的にダウンサイジングが可能な水処理技術として期待されるものです。

導入方法や課題等に注視したいと思います。

※DHS: Down-flow Hanging Sponge (下降流スポンジ状躯体)



現地を視察する委員

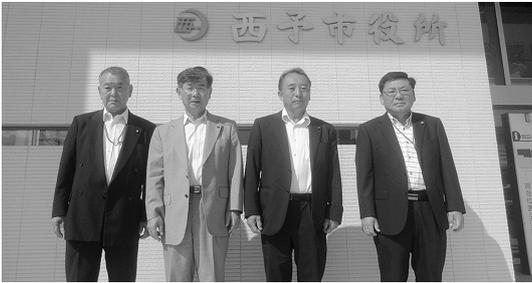
《愛媛県西予市》
城川町田穂地区景観計画について

西予市は、域内に多様な地形を有していることから全体が日本ジオパークに認定されており、それらを特色づける特徴的な景観を有する地区ごとの景観計画の策定を検討しています。

城川町堂の坂棚田を擁する田穂地区では、農村的な景観として日頃から住民が主体的に景観維持活動を行っており、意識が高かったことから、景観計画の策定に至りました。

担当者によると、景観計画の策定のために第一に必要なのは、住民の理解とこのことです。

景観計画の策定方式及び策定の過程について、参考となりました。



西予市役所にて

森林・林業・林産業活性化促進

十和田市議会議員連盟 視察報告 (8月8日～9日)

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所東北支所

○東北地方の多雪環境に適した低コスト再造林

再造林放棄地がふえる要因として、どの地域も費用負担が挙げられており、コストを抑え、いかに収支を上げられるかが課題となっています。また、市場調査によると、現在は高品質材よりも合板・集成材用の並材が主流となっていました。

そこで、多雪地帯での再造林コスト低減に向けて次の四点がポイントになるとのことでした。

- ①早く植えられ、確実に活着し、植付時期の制約が少ないコンテナ苗の利用
- ②機械による地ざしらえ作業と低密度植栽
- ③下刈り作業の大幅な見直し

④伐採作業と植栽を一度に行う一貫作業システムの採用

コンテナ苗は裸苗と比べてコストがかかりますが、ハウス等の簡単な施設で育苗でき、簡易な作業で植付できる等のメリットがあるそうです。

以上のことから、初期造林コストの半減は可能であり、このことが林業への意欲喚起につながるかと期待されています。

登米町森林組合

○太陽熱木材乾燥システム

震災時の仮設住宅や復興住宅需要への対応が迫られる中、乾燥木材の生産や乾燥コストの低減など、いかなるときも高品質の地域材を安定して供給できる体制作りが課題でした。そこで考え出されたのが太陽熱を利用した木材乾燥庫です。この乾燥庫の導入により大量



木材乾燥庫を視察する議員

○震災復興支援の取り組み
被災地での応急仮設住宅建設をきっかけに、市内関連団体全てが加入する協議会を設立し、登米市と基本協定を締結することで入札によらずに地域材・地域雇用による災害公営住宅の建設を請け負える体制を構築しました。